

おほつのみこ  
大津皇子、竊かに石川女郎に婚ふ時に、  
つもりのむらじとほる  
津守連通、その事を占へ露はすに、皇子の  
作らす歌一首

一〇九番

おほぶね  
大舟の 津守が占に 告らむとは まさしに知り  
て 我が二人寝し

ひなみしのみこのみこと いしかはのいらつめ  
日並皇子尊、石川女郎に贈り賜ふ御歌一首

一一〇番

おほなこ  
大名児を 彼方野辺に 刈る草の 東の間も 我  
忘れめや

よしののみや いでま  
吉野宮に幸せる時に、弓削皇子、額田王に  
おく あた  
贈り与ふる歌一首

一一一番

いにしへ  
古に 恋ふる鳥かも ゆづるはの 御井の上よ  
り 鳴き渡り行く